〔追　悼　文〕

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会理事，漆畑稔先生の訃報に接して

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会理事
山　本　信　夫

2026年3月6日早朝，漆畑先生の逝去を知らせるメールがご子息より送られてきました．つい3日ほど前に電話で話したばかりのこと，お加減は良くないと伺ってはいたものの，あまりに急なことに言葉も出ない思いでした．

漆畑先生は，昭和21年3月16日に静岡県でお生まれになり，昭和44年4月明治薬科大学をご卒業後，生家の漆畑薬局勤務の後，昭和54年9月ユーアイ薬局を開設，本格的に調剤業務に取り組まれ，現在はアリス薬局の傘下にあって先生が常に主張されていた，地域における薬局・薬剤師の役割を的確に果たすことを実践する薬局として，地域住民の健康に大きな貢献を続けています．昭和63年には静岡市薬剤師会副会長にご就任と同時に，静岡県薬剤師会理事にご就任され，地域薬剤師会活動に参画されました．その後，平成8年に日本薬剤師会常務理事，平成16年日本薬剤師会副会長として活躍され，退任後は日本薬剤師会相談役として後進の育成にも心を砕かれていました．日薬役員在任中は，平成10年4月から厚生労働省中央社会保険医療協議会（中医協）委員，平成13年厚生労働省社会保障審議会医療保険部会臨時委員，平成16年6月厚生労働省医薬品の流通改善に関する懇談会構成員として，保険医療やそれに係る医薬品流通に関する議論の場で，薬剤師を代表して「国民のためになる薬剤師・薬局の在り方」を訴え続けてこられました．先生が薬剤師になられた昭和44年（筆者は先生に遅れること4年して薬剤師になりました）は薬剤師100年の悲願であった，「医薬分業」が，目前に迫っている時代ですから，日本薬剤師会も会を挙げて全国の薬剤師に大号令をかけて，その実現と安定した運営に向けて体制整備を進めている時代でした．先生は，日薬の役員に就任されると同時に新設された「医薬分業対策推進本部」の中枢メンバーとして，医薬分業の推進の基礎作りに貢献されていました．「社会保険の漆畑」というイメージをお持ちの方も少なくないと思いますが，先生の薬剤師会での活動は幅広で，薬剤師養成教育6年制，生涯学習の推進など，現在の医薬医師業務の根幹に関わる対策にも貢献されています．さらに，いち早く，「後発医薬品の使用促進」に取り組まれる一方，今では電子化されるなど，薬物治療を受けている患者がもれなく所持している「お薬手帳」を現場に導入するきっかけとなる調査研究を主導されたことは，先生の卓越した先見性を示すものと言えるでしょう．筆者は，平成8年から，先生とご一緒に日薬で仕事をする機会を得てその後，先生がお勤めになられた厚労省関連の審議会・検討会の委員等を引きつぐ形で，共に医薬分業対策・教育・保険と歩ませて頂きました．40年に垂んとするお付き合いの間，「漆畑の先に漆畑なし，

無断転載禁止